

■英語英文学科 専門教育科目 授業概要

科目名	授業概要	担当者
イギリス文学講読 I	少し長めの文学作品を丁寧に読んでいくことを通じて、イギリス文学作品を原書で鑑賞する力を身につける。取り上げる作品は、Lewis CarrollのAlice's Adventures in Wonderlandである。この作品は、イギリス児童文学の中でも最も有名なものの一つであり、現在でも多くの人々に読まれている。このような作品を読むことにより、英語圏の人々と共通の文化的知識を身につけ、英語圏の人々とのコミュニケーションに間接的に役立てられるようにする。	鈴木 辰一
イギリス文学講読 II	イギリスを代表する劇作家であるWilliam Shakespeareの作品をいくつか取り上げ、講読する。メインのテキストとしては、子供向けに書かれた再話物語を使う。有名な場面や台詞については、原典からの抜粋や映像作品を通して理解を深めていく。イギリス文化の主要な部分の一つであるShakespeareとその作品に対する知識を深めることにより、英語圏の人々と共通の文化的知識を身につけ、英語圏の人々とのコミュニケーションに間接的に役立てられるようにすることを目的とする。	鈴木 辰一
アメリカ文学講読 I	ピューリタニズムを題材にしたNathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter (1850)と、中国系移民の母娘を描いた現代小説Amy Tan, The Joy Luck Club (1989)作品を取りあげる。アメリカ文学の主要作品である2作品の重要箇所を精読することによって、単なる作品の鑑賞にとどまらず、歴史的背景や社会的価値、どのような問題意識で、どのようなテーマが提示されているかも理解する。またアメリカ文学の主要な作家・文学作品について、グループ発表を行う。	古東 佐知子
アメリカ文学講読 II	奴隷制を題材にしたMark Twain, The Adventures of Huckleberry Finn (1885)と、アフリカ系アメリカ人の文学の代表作Richard Wright, Native Son (1940)を取りあげる。これらの作品を講読することにより、アメリカ文学の主題である「人種の問題」や当時の社会背景、ステレオタイプを克服することの困難さについて考察する。また、単に「物語」を楽しむだけではなく、作品を通してアメリカの世界について触れ、色々な観点から深く物事を捉えられるようにする。	古東 佐知子
アカデミック・イングリッシュ I	The goal of this course is to help students improve their ability to write short essays in English. The focus is on production of English – learning through doing. The course will start with the basics of good paragraph writing (according to Western modes of composition). These skills include learning how to write effective topic sentences and create unified paragraphs that have coherent support. Students will practice these composition skills by writing paragraphs about various topics.	コットン ランダル
アカデミック・イングリッシュ II	In Academic English II, students will begin working on longer essay writing. The main goal is to equip students with basic essay writing skills that will enable them to gather and use information from various sources. Summary writing teaches students to read critically to comprehend the content and point of view. Paraphrase writing teaches students how to use another person's ideas in their own words. Finally, students learn how to combine information written by different authors to support an essay thesis.	コットン ランダル
イギリス文学史	文学を専門的に学ぶ者として、最低限知っておくべきイギリス文学についての知識の習得を目指す。この授業では古英語の時代から現代に至るまでのイギリス文学の歴史を概観する。授業では、各時代の時代背景や代表的な作家の作品とその特徴などについての講義を、実際に文学作品の抜粋などを読みながら進めていく。また、授業外の課題として、3冊以上の文学作品を読み、その概要などをBook Reportとしてまとめて提出することを課す。	鈴木 辰一
イギリス文化論	イギリス社会、イギリス文化を概観する。毎回の授業では、キーとなるトピックを一つ取り上げ、その事柄について講義を行う。イギリス文化を学び、研究する上で必要な最低限の知識を得ることを目的とする。また、異文化理解を深めることを通じて、国際的な視野を持った教養人になることをも目標とする。	鈴木 辰一
英語学概論 I	英語学とは、英語を対象とした言語学のことであり、英語の背後に潜んでいる様々な規則性や歴史を見つけ出し、英語という言語の仕組みを明らかにしようとする幅広い研究分野を含んでいる。英語を教える立場に立つ人や学ぶ人にとっても、役に立つ知識・理論を提供してくれる学問分野である。本概論では各分野の中で以下の項目について概説する。1年生前期の教養演習も思い出して欲しい。	梅澤 敏郎
英語学概論 II	英語学とは、英語を対象とした言語学のことであり、英語の背後に潜んでいる様々な規則性や歴史を見つけ出し、英語という言語の仕組みを明らかにしようとする幅広い研究分野を含んでいる。英語を教える立場に立つ人や学ぶ人にとっても、役に立つ知識・理論を提供してくれる学問分野である。本概論では各分野の中で以下の授業計画の項目について概説する。1年生前期の教養演習も思い出して欲しい。	梅澤 敏郎
コミュニケーション学 原論 I	「コミュニケーション」ということばほど、こんにちさまざまな場面で用いられ、多くのひととびとによって馴染みのある用語はないといえる。一方、その概念の定義は多岐にわたる、まるで一義的な意味によってとらえられるのを拒んでいるかのようである。本授業では、コミュニケーションのはたらきを、たんに意味の伝達機能としてだけみるのではなく、むしろ、意味を生成させる場としての側面に焦点をあてる。わたしたちの日常生活や社会の出来事が、いかにコミュニケーション実践によっていとなまれているかを学ぶ。	中西 満貴典
コミュニケーション学 原論 II	「原論 I」で、コミュニケーション研究の対象が、ひろく人間や社会や文化のいとなみ(あるいは、それによって発生する問題)のなかにあることを理解してきた。「原論 II」では、さらに進んでコミュニケーション研究の実際を学ぶ。はじめに、研究上さけて通れない方法論(科学的・客観的・量的・質的アプローチ)について講じる。つぎに、前期につづき私たちの身の回りの出来事とコミュニケーションとの結びつきの場面を深く学ぶ。最後レトリック研究や記号論的方法によるコミュニケーション学の新しい問題系を提示する。	中西 満貴典
レトリック批評	「レトリック批評」という概念は、言語的諸実践によって構築された硬直化した言説空間を、言葉の介入によって脱構築を企てるいとなみとしてとらえる。わたしたちの思考習慣は放っておかれると、定型化された思考様式に陥ってしまう傾向がある。本授業では、いわば「思考を思考する」訓練(つまり、メタレベルの実践)を行なうために、いくつかのテキスト(「本物/言葉」、「声/文字」、「視覚/聴覚」等)に関する論考)を講読する。それによって、レトリック批評が、いかにコミュニケーション研究との密接な連関性を有しているかを学ぶとともに、自明視されている思考様式をクリティカルに吟味する眼を養う。	中西 満貴典
現代アメリカ事情	アメリカの映画やドキュメンタリー、最新のニュース映像などを通して、現代のアメリカが抱える問題や社会事情を垣間見る。具体的には公民権運動、黒人たちの文化運動、アメリカの女性運動などに関する映像、書物などを取りあげ、その裏にある文化背景やアメリカの根底にある思想について考える。また、出来るだけ「現代のアメリカ」に触れられるよう、ニュースや映画、歴史的資料など加工されていない生きた英語を講読する力も付ける。	古東 佐知子
英語教育学概論	本概論では、第二言語習得研究や英語教育学分野の諸議論を概観し、言語習得についての理解を深めるとともに、自らの英語学習へ応用できる力を養うことを目的とする。英語の教員には、言語習得理論や認知理論に精通し、理論に基づいた指導法を行うことが求められる。そのような理論や指導法を学ぶことは、自らの学習方法を見直し、自律的な英語学習者になることにも通じる。授業では、英語教育に関連したテーマでの英語ディベートや、受講生による模擬授業等を行うなど、実践的に展開する。	小島 ますみ
現代コミュニケーション学研究 I	「言語」「文化」「社会」「コミュニケーション」を鍵概念として言語と文化(あるいは言語と社会)の関係を論じていく。語られたものや書かれたものを言説としてとらえ、それが文化や社会からどのように影響を受けているのか、また反対に諸言説がどのように表象としての世界を構築していくのかを考察する。このような取り組みを通じて、メディアによる情報に毎日さらされるわたしたちが、批判的にものごとを考えていくためのメディア・リテラシーを養うことを目指す。	中西 満貴典

■英語英文学科 専門教育科目 授業概要

科目名	授業概要	担当者
現代コミュニケーション学研究Ⅱ	前期を終えて、各学生が設定したテーマによる研究構想をもとに研究発表(中間発表)をおこなう。この演習は研究の妥当性、問題点を考察して研究方法や研究対象、考察の観点を反省的にとらえて、研究を客観的に分析するプロセスとして位置づける。その後、論文を作成するための実際の方法を学び、内容を吟味しつつゼミでのディスカッションをくりかえし、論文完成を目指す。また、「コミュニケーションとは何か」を探究し批判的言説分析の方法を学ぶ。	中西 満貴典
アメリカ文学研究Ⅰ	アメリカ文学や文化を対象とする批評を読解することによって、物事をクリティカルに捉え、考えを主張する力を養う。具体的に、ポストコロナルや人種、文化に関する英語の文学批評をとりあげる。一見何気ないことが描かれているように見えるアメリカ文学においても、深く考えるとそこには様々な文化事象が横たわっていることを理解する。アメリカの小説をとりあげながら、参加者が独自の見解を論理的に展開できるようになることが目標である。	古東 佐知子
アメリカ文学研究Ⅱ	後期はアメリカ文学・文化に関する卒論(英語)の作成に取り掛かる。初めに、英語論文の書き方を(引用の仕方、論理的な論文構成、フォーマットなど)を確認する。同時に、学生は夏休みから引き続き、アメリカ文学の小説など英語で書かれた書物を各自で読み進め、卒論での分析に備える。授業ではそれぞれのテーマに沿った論文や批評を選び、それについて自らの観点で発表をおこなう。集大成として完成させる卒業論文は、下書きをした後、個別指導をとおして内容を吟味する。修正をくり返した後、最終的な卒論を完成させる。提出後には卒論発表会を行い、研究内容を発表する。	古東 佐知子
イギリス文学研究Ⅰ	イギリス文学・文化に関する学術論文を書くために必須のリサーチスキルの習得を目指す。授業で学んだスキルの実践を通して、論文のテーマ、大まかなアウトラインを決めていく。毎回の授業は、卒業論文テーマとその内容を決めていくためのステップについての説明と受講者によるその実践(各自の発表)をメインに進めていく。イギリス文学を研究するステップを踏んでいくことを通じて、解決すべき問題点とその解決法を見つけ、それを分かりやすく、論理的に、説得力を持って相手に伝える力を習得する。	鈴木 辰一
イギリス文学研究Ⅱ	前期に決めた論文のテーマとアウトラインをもとに、論文の執筆を進めていく。授業は、受講者による研究経過発表が主体となる。また、学術論文を書く上で知っておかなければならないことについての説明も行う。最終的に8,000字程度(英語の場合は3,000語程度)の卒業論文を完成させることを目標とする。イギリス文学・文化に関する学術論文を書くステップを踏んでいくことを通じて、解決すべき問題点とその解決法を見つけ、それを分かりやすく、論理的に、説得力を持って相手に伝える力を習得する。	鈴木 辰一
英語学研究Ⅰ	英語学のいくつかの分野を掘り下げ研究する。最終的には、各自がテーマを見出し、研究し、英語学研究Ⅱ(ゼミ・後期)で卒業論文として体系化しまとめることを目標とする。教養演習や英文法Ⅰ・Ⅱでも述べたように、普通の英語を、読み、聞き、書き、話すために知っておくべき決まりを「学校文法」と言い、中学校・高等学校卒業までの「英文法」のことを言う。大雑把に言って、その元になっている学問分野に「伝統文法」と呼ばれる学問成果がある。折に触れ、これらの確認を行う。ある言語に属するすべての文法的な文を作り出し、非(文法的)文を作り出さない体系である文法という装置の解明と、なぜ人々がそういう装置(言語知識)を獲得できるのかの解明を目指す「生成文法」という理論もある。「生成文法」のあらましから「統語論」「形態論」「意味論」「音韻論」を中心に、できる限り最新の理論までを勉強する。「英語史」を知っていると、教師として生徒の間違いに押しよせなくても対処でき、柔軟で幅広い言語観が持てる。ドイツ語・フランス語・日本語などとの「比較研究」も有意義である。この面の研究も行う。正規の授業に加え、毎週1コマの勉強会(参加は任意)、春休み・夏休み中の集中勉強会を通し、ゲルマン語派(ドイツ語など)とイタリック語派(フランス語などラテン語系)のミックスした、英語という言語の特質の感得を目指す。特に一般に難解と言われる「接続法」の理解・習熟と、上記「生成文法」の理論的探究には、プラスアルファの勉強会も活用して大いに勉強していく。卒論は英語学のどの項目(英語学概論Ⅰ・Ⅱで述べること、英文法Ⅰ・Ⅱで学習したこと、本ゼミで言及する内容やテーマ、その他)について研究しまとめてもよいが、本ゼミの教材では、上記「かざりかざり」のような英語学のいくつかの重要分野への焦点化をはかり、各自掘り下げていけるよう進めていく。ゼミを決める際に学科で配布した『ゼミナール紹介』シラバスも参照すること。	梅澤 敏郎
英語学研究Ⅱ	英語学研究Ⅰから引き続き、英語学のいくつかの分野を掘り下げ研究し、卒業論文として体系化しまとめることを目標とする。研究対象・資料としては、古英語から現代英語に至るあらゆる文学作品から時事英語・日常会話まで(「受験英語」も含め)すべての英語が値する。卒論の様式は、英文の場合、A4 65ストローク 25行 15枚程度。和文の場合、A4 35文字 34行 7枚程度以上。400字語原稿用紙で15~20枚程度。今までのテーマの一部:「時代の中の関係代名詞」「前置詞使用頻度上位8語について」「接辞と語源的意味について」「古英語について」「映画『マイ・フェア・レディ』に見るコックニー英語」などである。正規の授業に加え、毎週1コマの勉強会(参加は任意)を通し、ゲルマン語派(ドイツ語など)とイタリック語派(フランス語などラテン語系)のミックスした、英語という言語の特質の感得や、生成文法理論的探究を目指す。フィロロジーとリソロジーの両面から英語学に取り組む姿勢を身につける。ゼミを決める際に学科で配布した『ゼミナール紹介』シラバスも参照すること。	梅澤 敏郎
英語習得研究Ⅰ	このゼミでは、人間がどのように言語を習得するのか、習得を促進・阻害する要因は何か、またどのように理論や研究成果と学習・教授実践を結びつけるのかについて探求する。まず、英語教育学、第二言語習得研究分野の文献読解・討議をとおし、研究課題の設定のしかた、リサーチのデザインのしかたについて学ぶ。また、受講生各自が選んだ文献のレビューを行い、内容の討議を行う。前期の目標は、各自が卒業論文の研究テーマをみずから力で設定することである。	小島 ますみ
英語習得研究Ⅱ	このゼミでは、人間がどのように言語を習得するのか、習得を促進・阻害する要因は何か、またどのように理論や研究成果と学習・教授実践を結びつけるのかについて探求する。まず、前期終了時に設定したテーマによる研究構想をもとに、卒業論文の中間報告を行う。また、卒業論文テーマと関連の深い文献をレビューし、参加者全員で討議を行う。並行して、卒業論文のための文献調査、データ収集・分析を行う。前期、後期をとおして取り組んできたテーマをもとに、卒業論文を完成させることが、後期の目標である。	小島 ますみ
米国社会と政治研究Ⅰ	One goal of this course is to give students some insights into American society today by studying various current issues and discussing how these issues affect the everyday life of Americans. Readings and discussions will focus on the historical background behind important issues, as well as how politics influences these issues. Each year, topics vary, depending on current events and the interests of students. Another goal of the course is to improve skills for collecting and using information in research essays. As all of the readings, writing, and discussions will be done only in English, students who take this seminar need to have an intermediate to high level of reading and writing skills.	コットン ランダル
米国社会と政治研究Ⅱ	In the second half of the course, students will continue reading and writing about various current issues concerning U.S. society; however, one main topic will be used for reading, discussion, and writing. The aim is to read different sources of information about one topic and explore various sides of that topic. Students will begin doing their own research by gathering information about the topic and synthesizing the information. Through examples and practices, students will continue to improve skills for writing longer essays. These longer essays will be developed into their final report for the course. During the final part of the course, students will work independently to complete their final reports in English. Regular teacher/student writing conferences will be held to aid students in their research and improve their writing.	コットン ランダル
ライティングⅠ	本授業では、「3行英文ライティング」という演習方式による、センテンス・レベルのライティングからパラグラフ・レベルのライティングへの橋渡しをすることを目標にする。また、テキストを用いた演習のほかに、平易な英単語を英語で定義された表現の習得や、日本人が不得意とする基本動詞の多様な使用例の実際を学ぶ。また、DVD映像を利用し、視聴覚を活発にはからせる英語表現の学習も導入し、英文を書く学習を楽しくおこなう工夫をくわえる。	中西 満貴典
ライティングⅡ	「ライティングⅠ」について、「3行英文ライティング」演習によって、パラグラフ・レベルのライティングの基礎訓練をおこなう。学習の基本的な方式は前期と同様であるが、新たに映画(英米)を用いた英語表現の習得をめざす。字幕を日本語⇄英語と切りかえて、一般的によく使用される表現がみられる台詞に注目し、それらがどのようなコンテキストで用いられているかを学ぶ(リスニングの訓練もかねて)。	中西 満貴典

■英語英文学科 専門教育科目 授業概要

科目名	授業概要	担当者
ライティングⅢ	日英比較の観点を取り入れて基本的な英語表現力を養う。英作文は英借文である。借りてくる元になる正しい英文を定着させ増やすため、基本的に、毎時間暗唱テストを行う。4年制大学3年次編入学試験問題も、時間のゆとりを見つけて行う。	梅澤 敏郎
ライティングⅣ	日英比較の観点を取り入れて基本的な英語表現力を養う。英作文は英借文である。借りてくる元になる英文を定着させ増やすため、基本的に、毎時間暗唱テストを行う。自由英作文も書いてもらう。4年制大学3年次編入学試験問題も、時間のゆとりを見つけて行う。	梅澤 敏郎
英文法Ⅰ	TOEIC530点突破を目標(英検2級合格は当然の目標)に、学校文法の総整理をする。英文法の説明や問題演習を行いながら、TOEICの文法問題の出題形式に習熟していく。	梅澤 敏郎
英文法Ⅱ	TOEIC530点突破を目標(英検2級合格は当然の目標)に、学校文法の総整理をする。英文法の説明や問題演習を行いながら、TOEICの文法問題の出題形式に習熟していく。	梅澤 敏郎
オーラル・イングリッシュⅠ	英語のコミュニケーション能力、特にリスニング力の伸長に重点を置く。CALL教室でビデオ・音声教材を使用し、アメリカ社会の現実を浮き彫りにした映画を題材に、アメリカ文化や社会事情の理解と実用的な英語表現の習得を図る。また、テーマに関して興味を持ったことを調べ、英語で発表を行う。アメリカの社会問題と日本社会を比較することで、アメリカ社会に対する理解を深めるとともに、自国の社会についても再認識し、自分で考えたことを英語で発表できる力を付ける。	小島 ますみ
オーラル・イングリッシュⅡ	英語コミュニケーション能力、特にリスニングとスピーキングの向上を目指す。LL教室において、英語の歌や、「アメリカの日常」をドラマにした映像を使用し、生きた英語を聞き取るリスニング力を向上させる。またクラスメートへのインタビューや、英語のスピーチなどのアクティビティを通じ英語のoutputができるように練習する。毎回授業の初めに、5名程度の学生に2～3分のスピーチと質疑応答(英語)を行ってもらう。授業は極力英語で行う。	古東 佐知子
オーラル・イングリッシュⅢ	アメリカの主要都市・地域を映した映像をもとに、現地の人々のインタビュー、レポート、会話を通して加工されていないネイティブの英語を聞き取る力を身につける。また、アカデミックな環境においてコミュニケーションできる能力を向上させることも目指す。そのため毎回の授業でオーラル・プレゼンテーションの技術を習い、学期末には一人あたり5分程度のリサーチ・プレゼンテーション(英語)を行う。授業は基本的に英語で行う。	古東 佐知子
オーラル・イングリッシュⅣ	この授業では、毎回ニュース映像を視聴し、英語のコミュニケーション力にとどまらず、実際の英語運用に必要な知識・問題意識も身につける。また、プレゼン、ディベート、スピーチなどの活動を通じ、社会で実際に起こっている事象について、自らの英語で意見を発信する力を養う。英語のニュースや、公開されているプレゼンを視聴することによって、論理立てて英語で話すことの重要性を学ぶ。	古東 佐知子
リーディングⅠ	「英文を速く読む」という力を身につけることを目標とする。この授業では、時間や1分あたりに読むことのできるスピードを強く意識しながら速読の訓練を行う。併せて、毎回復習単語テストを行い、英文読解に不可欠な語彙力の訓練も行い、英文読解力を高めていく。	鈴木 辰一
リーディングⅡ	この授業では、中級レベルの英文読解能力の養成を目指す。様々なジャンル、パターンの英文を読むことを通じて、英文を読む際に役立つテクニック・スキルを習得していく。毎回の授業ではテキストのユニットを1つずつ進めていくが、予習を前提としているので、受講者は各回の授業で扱うユニットの文章を読み、テキストの課題を解いておくことが求められる。受講者の希望に合わせて、様々な形式の読解問題演習も、時間の許す限り行う予定である。	鈴木 辰一
リーディングⅢ	この授業では、上級レベルの英文読解能力の養成を目指す。政治や歴史など大きなテーマから、ごく日常的な話題に至るまで、様々な話題を扱った文章を読むことにより、読解力の向上を目指す。また、合わせて、これからの時代を生きていくために必要な幅広い視点を養うことも目指す。授業では3回につき1つずつLessonを丁寧に読む。読む英文の難易度がかなり高いので、解説に時間をかけながら進めていく。	鈴木 辰一
リーディングⅣ	リーディングⅢに引き続き、上級レベルの英文読解能力の養成を目指す。政治や歴史など大きなテーマから、ごく日常的な話題に至るまで、様々な話題を扱った文章を読むことにより、読解力の向上を目指す。また、合わせて、これからの時代を生きていくために必要な幅広い視点を養うことも目指していきたい。授業では受講者が興味を持ったトピックを6つ選び、2回の授業で1つずつLessonを読み進めていく。予習を前提として進めるので、受講者は指定された箇所を事前に読み、問題を解いておくことが求められる。	鈴木 辰一
英会話Ⅰ	This class will help students improve their English conversation skills. Clear training in how to speak English like a native speaker will be given. Students will understand the differences between Japanese and Western cultural speaking styles in order to communicate more effectively. Students will also spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year.	コットン ランダル
英会話Ⅱ	This class will help students improve their English conversation skills. Clear training in how to speak English like a native speaker will be given. Students will understand the differences between Japanese and Western cultural speaking styles in order to communicate more effectively. Students will also spend much time in class learning vocabulary and speaking with classmates about everyday life topics. By the end of the course, if students work hard, they will be able to speak English more fluently, accurately, and with more complexity than they could at the beginning of the year.	コットン ランダル
英会話Ⅲ	This course focuses on teaching the listening and speaking strategies needed for students to develop meaningful conversations in English.	ジュリアン ナット
英会話Ⅳ	Students will be encouraged to further develop the skills learnt in the previous semester and to become more confident in communicating in English.	ジュリアン ナット

■英語英文学科 専門教育科目 授業概要

科目名	授業概要	担当者
英会話AⅢ	The goal of this class is to help students continue to become more fluent English speakers. This will be done through weekly conversation practice in small groups and fluency practice. Another goal of this class is to introduce and practice various kinds of conversation skills which will help students to sound natural and have successful conversations. At all times, the focus of the course will be on speaking, so students are expected to come to class each week ready to communicate in English with their teacher and classmates.	コットン ランダル
英会話AⅣ	This course will continue where English Conversation III left off. The activities we will do in this class are designed to help students speak English more fluently. This will be done through weekly conversation practice in small groups and fluency practice. As in the first year, various kinds of conversation skills will be practiced in order to help students sound natural and have successful conversations. The main focus of the course is on speaking, so students are expected to come to class each week ready to communicate in English with their teacher and classmates.	コットン ランダル
英会話BⅢ	This course focuses on the development of students' listening and speaking skills. Students will have the opportunity to listen to a variety of authentic recordings and will develop speaking skills through a combination of pair, group and class activities.	ジュリアン ナット
英会話BⅣ	This course focuses further on the development of students' listening and speaking skills. Students will have the opportunity to listen to a variety of authentic recordings and will develop speaking skills through a combination of pair, group and class activities.	ジュリアン ナット
海外英語演習	アメリカ西海岸カリフォルニア州サンマルコス市にある、カリフォルニア州立大学サンマルコス校で、8月下旬から9月中旬の2週間にわたって開講される。受講者で、所定の基準を満たし、同大学の2単位を取得したものは、本科目2単位を取得することができる。授業では実用英語を中心に、アメリカ史など英語文化の背景も学び、見学として、アナハイム市のディズニーランドをはじめ、名所・旧跡を訪れる。ホームステイも体験する。実際のアメリカの大学の講義を理解する事ができるようになり、実用英語の運用能力が高まり、また、アメリカの風俗・習慣などの文化に直に触れることができることから、受講者に好評を博している。	梅澤 敏郎
ビジネス・イングリッシュ	卒業して就職してから、ビジネスの場でつかいこなすことができる英語力を身につけることを目標とします。ビジネスの場で使用されるボキャブラリの習得、会話の練習、英語の履歴書やメール・手紙等の書き方に関する演習、日米ビジネス文化における理解等を通して総合的な英語力の向上を目指します。また、様々なシチュエーションにおける英語の対話を聞き読解することで、生きた英語を習得します。ほかに、ビジネス用語が頻出するとされるTOEICの練習にも随時取り組む。	佐々木 真帆美
タッチ タイピング演習	パソコンの画面や原稿を見、キーボードは見ないでタイピングする方法をタッチタイピング法という。本演習では、タッチタイピング法に習熟するための系統的な訓練を行い、正確かつ迅速なタイピング技術を身につけるとともに、ワープロソフトの効率的な利用法を学ぶことで、コンピュータ活用能力全般の向上を目指す。具体的目標としては、7月に実施されるパソコン英文スピード認定試験2級(日本情報処理検定協会)の合格を目指し、タッチタイピングの訓練を行う。可能であれば、準1級、1級の合格を目指す	小島 ますみ
英語情報教育演習	本演習では、ワープロソフト(MS-Word)と表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作に習熟し、日本情報処理検定協会の実施する情報処理技能検定試験表計算部門2級、日本語ワープロ検定2級の合格を目指す。2つの検定試験対策を通じ、ワープロソフトと表計算ソフトの効率的な利用法を学ぶとともに、コンピュータ活用能力全般の向上を目指す。可能であれば、準1級や1級にも合格できる力をつける。	小島 ますみ
英語論文演習	そもそも、研究論文とはなにか、について考え、論文作成の手順を学ぶ。「英語論文演習」の名のとおり、英語論文の構成について学ぶ(MLA: Modern Language Associationの方式による)が、つねに、日本語論文ではどのようなことが当てはまるのかについても言及していく。それにより、研究論文の書き方を、テーマ選びや資料収集などを順々に理解し、論文を構成する基本的な要素や構造、あるいは表記法なども学ぶ。後半は、実際に英文エッセイライティングの基本的な知識を演習形式によって体得する。	中西 満貴典
インターネット・イングリッシュ	インターネットの利用を通して、メディア・リテラシーの基礎力を養成することを目標とする。インターネットを通して生きた英語に触れ、リーディング力を向上させるとともに、現代的な社会問題について必要な情報を収集し、得られた情報を適切に整理し、英語で効果的に意見を述べるスキルを育成する。受講生は、与えられたテーマに沿って小グループ内でディスカッションやプレゼンテーションを行う。また、エッセイを書いて発表するなど、能動的な参加が求められる。加えて、授業外多読課題を課す。	小島 ますみ
検定英語演習Ⅰ	世界の共通言語である英語のコミュニケーション能力を高める方法はいろいろありますが、英検やTOEICなどの検定英語において「〇級に合格する!」とか、「〇〇点とる!」など、具体的な目標をもって取り組むこともその一つです。その際、試験の傾向を熟知することも必要です。本授業では、実際の英検の試験問題と同じ形式の問題を解くことを通じて、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの問題に取り組み、総合的な英語力の向上を目指します。	佐々木 真帆美
検定英語演習Ⅱ	この授業では、TOEIC 550点突破に必要な英語力や攻略法を身につけることを目指す。授業では、毎回日常的なテーマを基にリスニング、リーディングの演習を行い、基礎的な英語力の向上を図るとともに、TOEIC各パートの攻略法を身につける。リスニングでは、ナチュラルスピードの会話に慣れることを目標とする。リーディングでは、テキストから必要な情報をすばやく読み取る力をつけるとともに、出題頻度の高い語句・表現や、基本的な文法もしっかりと身につける。	小島 ますみ